

論 險 保 療 醫

有斐閣雙書

医療保険論

佐口 卓 著



有斐閣双書

基本テキスト

著者紹介

さぐち たかし
佐口 卓

大正12年 東京に生まれる

昭和19年 早稲田大学商学部卒業

現在 早稲田大学商学部教授

主要著書 『日本社会保険史』(日本評論新社, 昭32), 『医療の社会
化』(勤草書房, 昭39), 『暮らしを守る社会保険』(日本労働協
会, 昭43), 『社会保障論』(共編, 有斐閣, 昭43), 『社会保険』
(共編, 有斐閣, 昭46)

有斐閣双書

医療保険論

昭和49年3月5日 初版第1刷印刷

昭和49年3月15日 初版第1刷発行

著者	さぐち 佐口	たかし 卓
----	-----------	----------

発行者	えぐさ 江草	ただあつ 忠允
-----	-----------	------------

東京都千代田区神田神保町 2~17

発行所 株式会社 有斐閣

電話 東京 (264) 1311 (大代表)

郵便番号 [101] 振替口座東京 370 番

本郷支店 [113] 文京区東京大学正門前

京都支店 [606] 左京区田中門前町 44

印刷 秀好堂・製本 明泉堂

©1974, 佐口卓. Printed in Japan

落丁・乱丁本はお取替いたします。

★定価は外函に表示してあります

はしがき

わが国の社会保障制度のあり方は、社会保険制度を中心として定着している。このことは、好むと好まざるとにかかわらず、現実の示すところである。それにしても、所得保障制度に対置する医療保障制度のあり方といえは、社会保険制度とかわりなく別個の制度もとりうる。医療サービス制度がそれであつて、イギリスやニュージーランドなどにみられる例であるが、社会主義国は別として、資本主義国では異例に属するであろう。むしろ医療保障制度は、社会保険制度の一分野としての医療保険制度を中心としている国々が圧倒的に多い。わが国もその例にもれない。

わが国では、すでに知られるように、昭和三六年から国民皆保険となり、すべての国民はいずれかの医療保険制度によつて医療の保障をうけることとなつた。ところが、ひとたび内部的検討を加えると、解決すべき問題が山積している。世の中には、今日の医療問題の諸悪の根源は、これら医療保険制度にあるという批判さえも生まれている。皆保険の実施いらい十数年の歳月が流れているにもかかわらず、事態は一向に改まっていな。わが国の医療保障制度の確立は、医療保険の道を進むにしても、はるかに遠くかつけわしいようである。

今日ほど医療の危機や荒廃が叫ばれている時機はかつてなかつたことである。医療問題という意識と視角に立つすぐれた書物が、さまざまなかたちで世に送られているのも、現代の反映である。

ここにまとめられた書物は、こうした大きな問題に答えるものではない。医療保険制度についての制度的解明をおこなっているささやかなものである。しかしながら、大きな問題の根底にある医療保険制度の基礎的ないしは基本的な問題を掘り起こしている点においては、その存在価値を主張しうるに足るものであるといつてよい。とくに、医療保険制度は、社会保険制度の一分野であれ、きわめて特異な制度であり、保険技術としても固有のものをもっている。それだけに、その制度的解明は医療保障制度の基礎の解明につながっているわけである。本書が、現行制度の解説などをあまりおこなわずに、もっぱら制度に内蔵されている固有の保険技術の追究に焦点をあてているのはこのためである。

わたくしは、ここしばらくの間は、各国の医療保障制度に興味をおぼえ、その成果を奉職する大学の機関誌に逐次発表してきた。また、医療保障論や医療保険論を体系的な講義としておこなう機会をしばしばもってきた。さらに、時折の求めに応じて専門的雑誌にも筆をとってきた。これらのノートやメモや論稿を参考とし、体系的になりうるような配慮を加えて、本書をとりまとめたのである。ただ各国の制度については、ここではほとんどふれることなく、わが国の現行制度を中心として叙述してある。全体の構成としては、前半（第七章まで）で基礎的かつ基本的問題を扱い、後半でいまのわが国の医療保険の動向と問題を扱っている。体系的なまとめであり、基礎的解説をも加味するために、客観的な叙述をしているつもりだが、主観的な意見が潜在的には展開されているのはやむをえない。後半においてそれがより強いのは当然なのかもしれない。医療保険制度に明るい

人びとは、ただちに後半を読まれることになるうが、その前提として前半で整理し展開した基本的問題もおろそかにしないでほしいものである。また、外国でもわが国でも、医療保険制度だけを扱った書物はきわめて少ないために、あるていどは手さぐりで進まざるをえなかったので、思わぬ誤りをおかしているかもしれない。その点は遠慮なく指摘してほしいものである。いずれにしても、おそらくはわが国で初めての書名になったこの書物が、現代の医療問題や医療保障の解明への手がかりになってくれるならば、著者の喜びは大きい。

本書の成立については、有斐閣編集部の石塚務氏がなにくれとなく面倒をみてくれた。記して感謝の意を表したい。

昭和四九年二月

佐 口 卓

追記 本書のうち、第7章の1は『社会福祉と生活構造——籠山京教授還歴記念』（光生館、昭和四七年）、第10章は小川喜一編『老齡保障』（至誠堂、昭和四八年）に収録した論稿を再録してある。

『有斐閣双書』の刊行に際して

わが社は、創業七十周年記念出版の一として「有斐閣全書」を、次いで「教養全書」を、また八十周年記念として「法律学全集」を、さらに随時各種の「講座」「演習」「辞典」などを刊行し、戦後における學術の發展と普及に大きな役割を果たしてきた。

しかし、近時の大学教育のめざましい進展により、学習・研究者の層が著しく拡大されてきたこと、さらに最近の社会的・経済的情勢の変化に伴ない、社会人の再教育が重要性を加え、かつ実務上の問題解決に正しい指針を与える良書を求むる声の大なることを顧慮するとき、旧来の殻を破った新しい双書の必要を痛感するに至った。

『有斐閣双書』は正にその要請に応えるために企画されたもので、法律・経済・社会などの社会科学を中軸とし、広く人文科学その他の関連分野にわたる従来の研究の貴重な成果をとり入れ、表現は平易・簡潔に、内容は必要にして十分なコンパクトなものであることを期している。

本双書は、次の二つを主な内容とする。まず、入門・基礎知識編Ⅴでは、初学者のためのやさしい教科書、既修知識を能率よく整理するための参考書、さらに、通常の教科書では初学者には理解しにくいもの、または十分に論じ及んでいない問題についての、分りやすい解説などを収め、それぞれの読者層に対応した正しい基礎知識を提供する。

次に、A理論・実務編Ⅴでは、理論・実務上の重要なテーマについて、専門分野の枠にとらわれることなく総合的に解説し、研究者にとっては、研究の豊かな糧となり、実務家にとっては、日常の執務のよき相談相手となることを期するものである。

執筆者には、それぞれの問題について、造詣の深い新鋭と權威にお願いし、読者の要望に正しく応えようように最善の配慮をしている。この双書発刊の意義と熱意をくまれ、心からなる御支援をお願いしてやまない。

(昭和三十九年三月)

有斐閣双書

既刊と続刊

*印は続刊

入門・基礎知識編

伊藤正己著
憲法入門

佐藤功編
教材憲法入門

幾代通・遠藤浩編
民法入門

末川博編

大西芳雄編
憲法概説

今村成和著
行政法入門

谷口知平・於保不二雄編
民法概説(2)

伊藤正己・加藤一郎編

阿部照哉・池田政章編

杉村敏正編
行政法概説総論

谷口知平・於保不二雄編
民法概説(3)

現代法学入門

*憲法講義(1)

—総論—

—親族・相続—

渡辺洋三編

阿部照哉・池田政章編

杉村敏正編

広中俊雄・水本浩・山本進一編

法の常識

*憲法講義(2)

—基本的人権—

—総則—

民法(1)

伊藤正己・加藤一郎編

綿貫芳源・高原賢治編

成田頼明・荒秀南・博方近藤昭三・外間寛著

遠藤浩・川井健・原島重義編

教材法学入門

憲法二五講

現代行政法

民法(2)

—物権—

天野和夫著

芦部信喜・小島和司

杉村敏正・広岡隆

遠藤浩・川井健・原島重義編

法思想史入門

憲法の基礎知識

行政法の基礎知識

民法(3)

—担保物権—

柴田光蔵著

阿部照哉・池田政章編

広岡隆・室井力・塩野宏編

遠藤浩・川井健・原島重義編

ローマ法の基礎知識

憲法判例

行政法判例

民法(4)

—債権総論—

遠藤 浩・川井 健・原島重義
廣中俊雄・水本浩・山本進一編
民法 法(5)

—契約総論—

遠藤 浩・川井 健・原島重義
廣中俊雄・水本浩・山本進一編
民法 法(6)

—契約各論—

遠藤 浩・川井 健・原島重義
廣中俊雄・水本浩・山本進一編
民法 法(7)

事務管理・不当利得・不法行為

遠藤 浩・川井 健・原島重義
廣中俊雄・水本浩・山本進一編
民法 法(8)

—親族—

遠藤 浩・川井 健・原島重義
廣中俊雄・水本浩・山本進一編
民法 法(9)

—相続—

島津一郎著
家族法入門

幾代通・鈴木 禄弥

民法の基礎知識(1)

—質問と解答—

高梨公之・泉野義信
篠原弘志著

民法の基礎知識(2)

—質問と解答—

甲斐道太郎・乾 昭三
樺寿夫編
民法判例(1)

—総則・物権—

甲斐道太郎・乾 昭三
樺寿夫編
民法判例(2)

—債権—

水本浩・高木多喜男編
民法法三〇〇題

*

服部栄三・北沢正啓編
商法

大隅健一郎・大森忠夫編
商法概説(1)

—序論・総則・会社法—

大隅健一郎・大森忠夫編
商法概説(2)

商行為・保險・海商・手形小切手

上柳克郎・北沢正啓
鴻 常夫・竹内昭夫編

会社法(1)

(前法講義2)

上柳克郎・北沢正啓編
鴻 常夫・竹内昭夫
会社法(2)

(前法講義3)

三戸岡道夫著
株式会社法入門

河本一郎著

約束手形法入門

△新版▽

上柳克郎・中西正明編
商法判例(1)

—総則・会社法—

上柳克郎・中西正明編
商法判例(2)

鴻 常夫著
小切手法入門

商行為・保險・海商・手形小切手

中田淳一編

民事訴訟法概説(1)

—判決手続—

中田淳一編

中田淳一編
民事訴訟法概説(2)

—強制執行—

藤木英雄著

刑法

平場安治・井上正治
滝川春雄編

—總論—

刑法概説(1)

平場安治・井上正治
滝川春雄編

—各論—

刑法概説(2)

福田平・大塚 仁著

刑法の基礎知識(1)

—質問と解答—△總論▽

藤木英雄編

教材刑法入門

平場安治・宮内裕編
学説・判例 刑法案内

△新版▽

西原春夫・大谷実編

* 刑 法 二〇〇 題

松尾浩也・田宮裕著

刑事訴訟法の基礎知識

― 質問と解答 ―

片岡 昇著

* 勞 働 法 (2)

窪田隼人・本多淳亮
片岡昇著

労働法の基礎知識

― 質問と解答 ―

青木宗也・片岡 昇著
藤沼謙一・横井芳弘著

勞 働 法 判 例

外尾健一・花見 忠編

教材労働法入門

有泉 亨編

勞 働 法 概 説

西原道雄編

社 会 保 障 法

菊池勇夫・林迪広編

勞 働 法 大 意

佐藤 進編

* 社会保障法判例

外尾健一著

勞 働 法 入 門

片岡 昇著

* 勞 働 法 (1)

香西 茂・大壽堂勝著
高林秀雄・山手治之著

国 際 法 概 説

小田 滋・石本泰雄
寺沢 一編

現 代 国 際 法

沢木敬郎著

国 際 私 法 入 門

篠原 一・永井陽之助編

現代政治学入門

勝田吉太郎・山崎時彦編

政治思想史入門

加藤一明・加藤秀太郎
佐藤 竺・渡辺保男著

行 政 学 入 門

斉藤 孝編

国際関係論入門

△第二版▽

大石泰彦編

現代経済学入門

△増訂版▽

荒憲治郎・福岡正夫編

経 済 学

△基本テキスト20講▽

熊谷尚夫・大石泰彦編

近代経済学(1)

― 基礎理論 ―

熊谷尚夫・大石泰彦編

近代経済学(2)

― 応用経済学 ―

熊谷尚夫・大石泰彦編

近代経済学(3)

― 近代経済学史 ―

岡野行秀・根岸隆編

公 共 経 済 学

宮崎義一編

近代経済学研究入門

馬場正雄編

計量経済学入門

手嶋正毅編
経済学の基礎

小林昇編
経済学史
△基本テキスト15講▽

加藤寛・中村秀一郎
新野幸次郎編
経済政策(1)
— 経済政策の原理 —

美濃部亮吉編
日本経済入門

富塚良三編
経済分析入門

水田洋編
社会思想史

加藤寛・中村秀一郎
新野幸次郎編
経済政策(2)
— 日本の経済政策 —

宮下武平編
日本産業論

横山正彦編
経済学概論
△基本テキスト14講▽

相原光・土屋六郎編
国際経済学入門

加藤寛・中村秀一郎
新野幸次郎編
経済政策(3)
— 日本の産業政策 —

宮沢健一編
産業構造分析入門

古川哲編
経済学要論

水田博・名和猷三編
国際経済論
△基本テキスト17講▽

神野璋一郎・吉田義三編
経済政策論
△基本テキスト20講▽

川上正道・上原信博著
農業政策論

杉原四郎・佐藤金三郎編
マルクス経済学

松井清著
世界経済入門
△増訂版▽

野田稔・中村秀一郎編
経済政策入門
△新版▽

藤田敬三・竹内正巳編
中小企業論
△新版▽

宮本義男編
経済学原論

木下悦二編
貿易論入門

越後和典編
産業組織論

岩尾裕純著
現代中小企業論

杉本俊朗編
マルクス経済学研究入門

* 宇高基輔編
社会主義経済論

伊東俊吉・小林義雄
加藤誠一編
工業経済論
△基本テキスト20講▽

尾上久雄編
経済体制論

出口勇蔵編
経済学史入門

千種義人編
経済政策

江見康一・塩野谷祐一編
日本経済論
— 経済成長一〇〇年の分析 —

増井健一・佐竹義昌編
交通経済論

福地崇生編

* 地域経済学

堀江英一著

経済史入門

永原慶二編

日本経済史

後藤靖藤井松一
佐々木隆爾著

* 日本資本主義発達史

麓健一著

貨幣論

田村茂・原正彦
石川常雄著

* 金融論入門

三宅義夫著

金融論

竹村脩一編

金融経済論

△基本テキスト12講▽

新庄博著

国際金融論

村野孝・松村善太郎編

国際金融

―通貨と制度―

矢尾次郎・川口慎二編

金融政策入門

紅林茂夫・東米雄
斎藤健編

銀行論入門

―日本の金融と銀行―

川合一郎・一泉知永編

証券市場論

伊奈田・熊野・具志村
竹村・野田・浜田著

証券経済論

肥後和夫編

財政学要論

木下和夫・肥後和夫
大熊一郎編

財政学(1)

―財政の理論―

木下和夫・肥後和夫
大熊一郎編

財政学(2)

―日本の財政―

木下和夫・肥後和夫
大熊一郎編

財政学(3)

―日本の地方財政―

木下和夫編

財政政策入門

高橋誠・柴田徳衛編

財政学

△基本テキスト16講▽

和田八束・吉岡健次編

* 地方財政

森田優三・竹内清
宮川公男編

統計学入門

内海庫一郎・木村太郎
三浦信邦編

統計学

△基本テキスト20講▽

大橋隆憲・高木秀玄
大塚祐雪編

経済統計

岸本英太郎編

社会政策入門

△改訂版▽

矢島悦太郎編

社会政策概論

岸本英太郎編

労働経済論入門

小野旭・南亮進編

労働経済論

近藤文二編

社会保障入門

小山路男・佐口卓編

社会保障論

△基本テキスト18講▽

佐口卓著

医療保険論

西村裕通編

労働者福祉論

丹波康太郎編
財務管理概論

鈴木忠義編
*現代観光論

桜井信行編

現代経営学入門

細井卓著

財務管理入門

飯野利夫編

現代会計学入門

馬場克三編

経営学概論

後藤幸男・森昭夫編

経営財務

山掛忠恕編

会計学

中村常次郎編

経営学

森五郎編

労務管理論

青木茂男編

管理会計概論

△基本テキスト14講▽

岡村正人編

経営学総論

海道進・島弘編

現代労務管理概論

久保田音二郎編

原価会計

桜井信行編

経営学研究入門

森下二次也編

商業概論

大郎・君塚・近藤
敷田・中村・成田 著

原価計算

田杉競編

経営管理総論

深見義一編

マーケティング論

*久保田音二郎編

監査論

松岡磐木編

経営管理論

久保村隆祐・村田昭治編

広告論

*涌田宏昭編

経営情報論

△基本テキスト18講▽

△基本テキスト17講▽

日本社会学会
編集委員会編

現代社会学入門

福武直・浜島朗編

社会学

△基本テキスト16講▽

福武直編

社会学研究案内

―問題点と文献解説―

福武直・松原治郎編

社会調査法

安田三郎著

社会調査ハンドブック

△新版▽

武藤真介著

社会統計学

浜島朗編

社会学史

森岡清美編

家族社会学

△基本テキスト16講▽

岩井弘融編

都市社会学

△基本テキスト9講▽

萬成博・杉政孝編

産業社会学

△基本テキスト15講▽

北川隆吉編

労働社会学入門

佐藤毅編

社会心理学

日高六郎・佐藤毅
稲葉三千男編

マス・コミュニケーション入門

千葉雄次郎編

マス・コミュニケーション要論

高木教典編

マス・メディア産業論

姫岡勤・二関隆美編

教育社会学

△基本テキスト11講▽

大橋薫編

社会病理学

△基本テキスト17講▽

大橋薫・大藪寿一編

都市病理学

△基本テキスト14講▽

大橋薫・四方寿雄
光川晴之編

家族病理学

△基本テキスト16講▽

青井和夫・松原治郎
副田義也編

生活構造の理論

安田三郎編

現代日本の階級意識

中村八朗著

都市コミュニティの社会学

浜島朗編

現代青年論

蒲生正男・祖父江孝男編

文化人類学

蒲生正男・吉田禎吾編

社会人類学

一番ヶ瀬康子・真田是編

社会福祉論

△基本テキスト12講▽

小松源助編

* ケースワーク論

一番ヶ瀬康子編

* 児童福祉論

山口透編

* 少年保護論

末永俊郎編
現代心理学入門

上出弘之・伊藤隆二編
知能

山崎正一・田島節夫編
現代哲学入門

堀米庸三編
現代歴史学入門

大山正・詫摩武俊
中島力著
心理学
▲基本テキスト17講▽

金田利子著
乳幼児保育論

沢田允茂編
哲学
▲基本テキスト14講▽

井上光貞編
日本史入門

大山正・池田央
武藤真介編
心理測定・統計法

安藤瑞夫編
産業心理学
▲基本テキスト15講▽

城塚登編
西洋哲学史

西嶋定生編
東洋史入門

末永俊郎編
心理学研究入門

山田雄一編
組織心理学

城塚登編
社会思想史入門

井上幸治編
西洋史入門

*
河内十郎・深田芳郎著
生理心理学の基礎

平尾靖編
犯罪心理学

荒川幾男・生松敏三編
近代日本思想史

沢田慶輔・小口忠彦編
教育心理学
▲基本テキスト10講▽

*
依田明・永野重史著
児童心理学

勝田守一編
現代教育学入門

道喜美代・渡辺ミチ編
家政学
▲基本テキスト12講▽

白井俊明著
無機化学入門

津留玄編
青年心理学
▲基本テキスト10講▽

▲基本テキスト10講▽

▲基本テキスト12講▽

▲基本テキスト12講▽

理論・実務編

遠藤博也著

*都市計画法五〇講

鈴木祿弥・高原賢治編

土地収用法五〇講

下出義明編

*土地区画整理法五〇講

遠藤浩・荒秀・中村博英編

*建築基準法五〇講

花見 忠編

労働基準法五〇講

花見 忠・保原喜志夫編

*労災補償安全衛生五〇講

野村好弘著

自動車事故の民事判例

野村好弘著

公害の判例

野村好弘著

*日照の判例

野村好弘著

医療事故の民事判例

野村好弘著

名誉侵害の民事判例

野村好弘著

学校事故の民事判例

広岡 隆著

行政代執行法

鈴木祿弥著

根抵当法の問題点

谷口知平・植林 弘著

損害賠償法概説

五十嵐清・田宮 裕著

名誉とプライバシー

太田武男著

夫婦の法律

太田武男・久貴忠彦著

親子の法律

太田武男著

*相続の法律

平出慶道著

株式会社の設定

谷川 久著

商品の売買

小野昌延著

*不正競争防止法概説

藤木英雄著

経済取引と犯罪

詐欺・横領・背任を中心として

久保敬治著

労使間の交渉手続

萩沢清彦著

八時間労働制

三島宗彦・佐藤進著

労働者の災害補償

新野幸次郎・伊東光晴編
寡占經濟論

山根常男・森岡清美編
現代社会学の基本問題

加藤誠一編

中小企業問題入門

早川和男・和田八束
西川桂治編
住宅問題入門

深見義一・佐藤肇
田島義博編

流通問題入門

藤田忠編

人事管理

マーケティング・
サイエンス研究会編

マーケティング調査

片岡信二著

コンピュータ入門
ハード／ソフト／システム

宮川公男編

システム分析概論
—政策決定の手法と応用—

—以下逐次刊行—